



食卓を囲む団らんのかたち

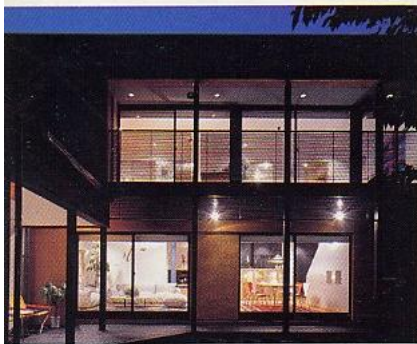
家族そろっての食事の時間を何より大切に。お客様をもてなすときにはおいしい食事が主役となり、食卓を囲んで宴はいつ果てるともなく続く……。こんなお宅は、大きな食卓を中心にした食事の空間を充実させるに限ります。居心地がよく、離れがたい食事の場は、家族やお客様との最高のリラクゼーションスペース。6例を紹介します。



▲ダイニングからリビングに向かって。左手に中庭が見える。壁と天井はほとんど白のビニールクロス貼りだが、リビングとダイニングを仕切る引戸に挟まれる正面の壁のみ、ガラスタイルモザイク貼り。床はナラフローリング。
▶テーブルとチェアはデンマーク・フリッツハンセン社製。ペンダントはイタリア・フロス社製のフリスビー。



▲リビングからダイニングに向かって。リビングの家具はアルフレックスのもの。ダイニングの飾り棚の左手奥にキッチンがある。
◀▲中庭からの夜景。美しくライトアップされたインテリアが見える。テッキに置かれた折り畳みの黄色いチェアは、ニーチェア。
◀左よりご主人の勝さん、中学2年生の仁美さん、高校1年生の麻里さん、奥様の寿美子さん。仲のよい、お友達のようなご家族。



食卓を囲む団らんのかたち

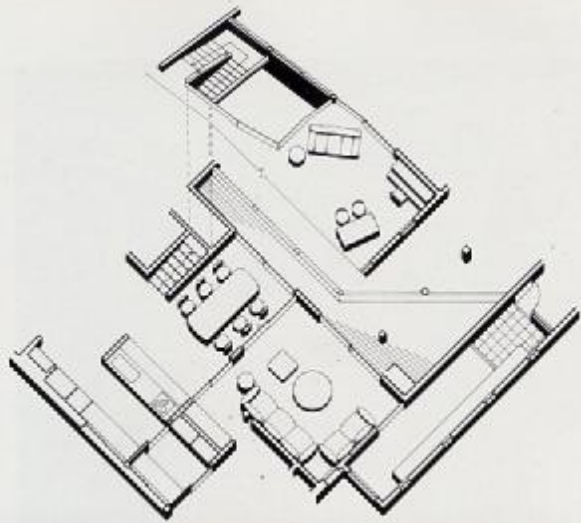
伸びやかなダイニングを中心に
わが家のカラーでコーディネート

末広邸

設計・富田建築設計室(協力)松久建築事務所

徳島市の末広さんの住まいの中心は、吹抜のダイニング。奥様も仕事を持つご夫妻が設計者の富田さんにお願したのは、なるべく家族の目と目が合うようなオープンな家にして欲しいということ。なるほど吹抜の上部、白い手すりの回された2階の廊下やプレイルームからは階下のリビングやダイニングが見え、人の気配が伝わります。家のほぼ中央にレイアウトされた階段は、この空間を立体的につなげるデザインの象徴であるとともに、お子さんたちが各自の部屋へ行くときに、リビングやダイニングを通るようにという、動線を考慮しての装置でもあります。

また、ご夫妻のもう一つの要望は、デザインとクオリティの高い家具や照明器具などに囲まれて暮らしたい、ということ。ヨーロッパの家庭のように、よい家具を親子で大事に使い継いでいきたいと、富田さんといっしょに熱心に検討してそろえたそうです。シンプルな空間に、赤や白のセブンチェアや、優しいフアブリックを張ったマレンコ、そしてそれらに合わせたトーンの絨毯などが色を添えています。女性が多い家庭らしく、華やいだ笑い声の絶えないご家族を表すようなインテリアです。



▲麻里さんと仁美さんのリビングとも呼べる、2階のプレイルーム。ソファは村田合同。手前の赤いミニキッチンはお友達とのパーティに大活躍。夏にはここから津島市の河川をみんなで眺めるそうだ。

◀取付け上部、階段の上から見る。外側から1階、そして2階と自然に空間が連続する。ご夫妻のお友達がみえても、お嬢さんたちはリビングやダイニングを抜けるときに、自然に挨拶や会話を交わせる。「プランによって家族のコミュニケーションは間違いなく変わる」という富田さんの意図どおり、この家ではだれも部屋にこもらず、何となく家族がいっしょに居ることが多いという。この家に住んでから麻里さんと仁美さんが明るくなった、と近くに住む関係のご両親にも言われているそうだ。

くつろぎ新・スタイル

設計・富田建築設計室 ☎0886-55-3885
撮影・大竹静太郎